**＜初診問診票の記入例＞**

☆全て簡易に箇条書きの記入でお願いします。（長すぎると読むだけで20分以上要して他の診察に影響が出ることがあります。初診の場合は問診時間も長めの設定ですのでご安心下さい）。

**【現在の主な西洋病名を書いて下さい。】**

☆１番治したい病名からご記入下さい。

例）炎症性腸疾患疑い

　　アレルギー性皮膚炎

【現在の内服薬、外用薬、サプリメント】

☆ステロイド剤、免疫抑制剤、漢方薬、点滴に関しては、分かる範囲で薬の量も記載して下さい。

　情報提供書には連携医にご記入いただく欄もありますので、漢方薬との飲み合わせの確認ができます。

例）プレドニゾロン”プレドニン”5mg錠　0.5mg/kg （または1/2錠でも）1日1回内服

消風散　1包　1日2回内服：量は不明。

　　皮下点滴”ソルラクト”　100ml 1日1回：嘔吐下痢がある時に3日間

　　マロピタントクエン酸塩”セレニア”注射：嘔吐・咳が目立つ時のみ

　　ウルソデオキシコール酸”ウルソ”　1日1回内服

　　マイトマックススーパー：自己判断で内服

【幼少時から気にかかる症状（下痢・嘔吐など）、過去の病名、現在の病気の症状・検査・治療内容（西洋治療・漢方薬・サプリメント）～】

☆発症日付順に簡易に箇条書きに書いて下さい。特に治したい病名や症状に対しては、症状が悪

化または軽減するきっかけがあればご記入下さい（東洋診断に重要）。

例）幼少時からの嘔吐：アレルギーの症状が出た時に吐く。

幼少時からの下痢：鶏肉を食べると下痢をする。

幼少時からの便秘：ない。

幼少時からのアレルギー：アレルギー検査で鶏肉など様々な項目で陽性。下痢、皮膚の赤み、痒みが出る。

　　幼少時からの他の症状：慢性の咳。

2011～2017年（1～7才）：鶏肉を食べると下痢になり皮膚が赤く痒みが出やすい。アレルギー検査をしたら、鶏肉など様々な項目で陽性になった。アレルギーのドックフードに変更し、症状が出た時にステロイドの注射と内服で治っていた。

　　2016年（5～6才）：皮膚の痒みが出やすいので、漢方薬局で消風散をもらい内服すると痒みが少しましな気がする。

　　2017年（6～7才）

・8月：咳（咳き込んだ後、飲み込む動作がある）もするようになり、食後に目立つ。血液検査では肝臓の数値（ALT）のみが高めだった。エコー検査では胆泥が少量あり、レントゲン検査では問題ないと言われた。ウルソの内服を始めた。

2018年（7～8才）

・9月：ステロイド剤でも下痢と嘔吐が止まりにくくなる。便の培養検査にて病原性のある細菌が出ていたので、抗生剤（ホスホマイシン）を内服したが下痢が続くため中止した。炎症性腸疾患の疑いがあるようです。 今はプレドニゾロン、ウルソ、マイトマックススーパー、消風散の内服と、下痢嘔吐が目立つ時は病院で皮下点滴とセレニア注射。

2018年10月1日（8才）現在の症状

・嘔吐、下痢

・皮膚の赤み、痒み

・慢性の咳（病名は聞いてません）

　　最新の検査所見：なければ無しと記入

　　・2018年9月30日(8才)血液検査：別紙。

　　・2017年8月　日(7才)尿検査：別紙。

　　・2017年8月　日(7才)エコー：胆泥少し。

　　・2017年8月　日(7才)レントゲン：異常なし。

* 年　月　日(　才)CT：無し。
* 年　月　日(　才)MRI：無し。
* 年　月　日(　才)内視鏡：無し。
* 年　月　日(　才)病理：無し。

・2013年3月10日(3才)アレルギー検査：鶏肉など様々な項目で陽性。